

【口頭発表 第1部】
第5分科会 「キャリア形成、能力開発」

発達障害者当事者における「自己理解の支援」の 意味についての探索的研究 — 就労パスポートを活用したキャリア形成支援 —

○宇野 京子 (職場適応援助者)
前原 和明 (秋田大学 教育文化学部)

key words: ASD当事者、自己理解支援、就労パスポート、KJ法、ライフ・ライン・チャート

1 背景と目的

- 1990年代の後半から、障害のある人のキャリア発達と職業適応に関心が急速に高まってきた¹⁾。
- 発達障害当事者が「生活の質」QOLを向上させたいと願い、非正規雇用から正規雇用へキャリアアップを果たした文献は、あまり見当たらない。また、発達障害当事者が転機と捉える時期に、支援者が実施した自己理解の支援行動がどのような意味をもつのか、キャリア形成との関連性についての分析も十分に行われていない。

- **本研究の目的** 発達障害当事者のキャリア形成における心理的変化を明らかにする
- **期待する効果** ・対象者ニーズによるキャリア形成支援
・知的に遅れがない発達障害者のキャリア支援の在り方について検討する際の一助になる



2 研究方法

対象者

- Aさん、男性、20代、自閉スペクトラム症(アスペルガー症候群)
- 精神障害者保健福祉手帳2級
- 適格基準：記録を基に、インタビュー対応が可能であるとした

方法

- ミーティングソフトzoomを利用した、半構造化面接によるインタビュー調査
- 対象者に逐語録を確認をしてもらい、ライフ・ライン・チャート²⁾は対象者と研究者と協議しながら完成をさせた

実施日

- 2021年6月22日～7月3日

倫理的配慮

対象者へ、研究の目的と方法、自由意志による協力と辞退、プライバシーの保護、データ管理の厳守や本研究以外にデータを使用しない事について書面と口頭で説明し、承諾を得てからインタビュー調査を実施した。

3 調査結果

調査時間は120分、KJ法³⁾で分析した。

逐語録
作成

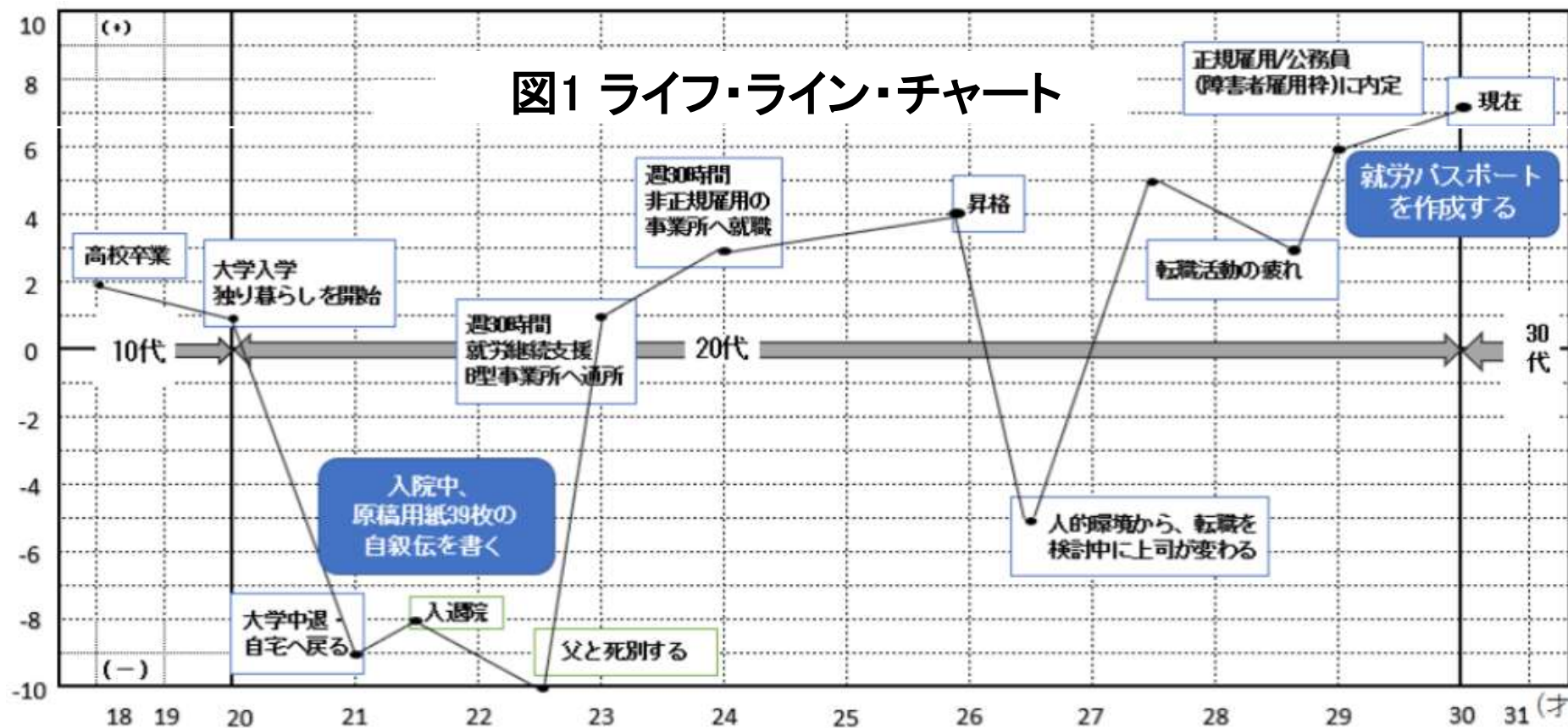
252枚
ラベル

第4段階
6項目表札

A型
図解化

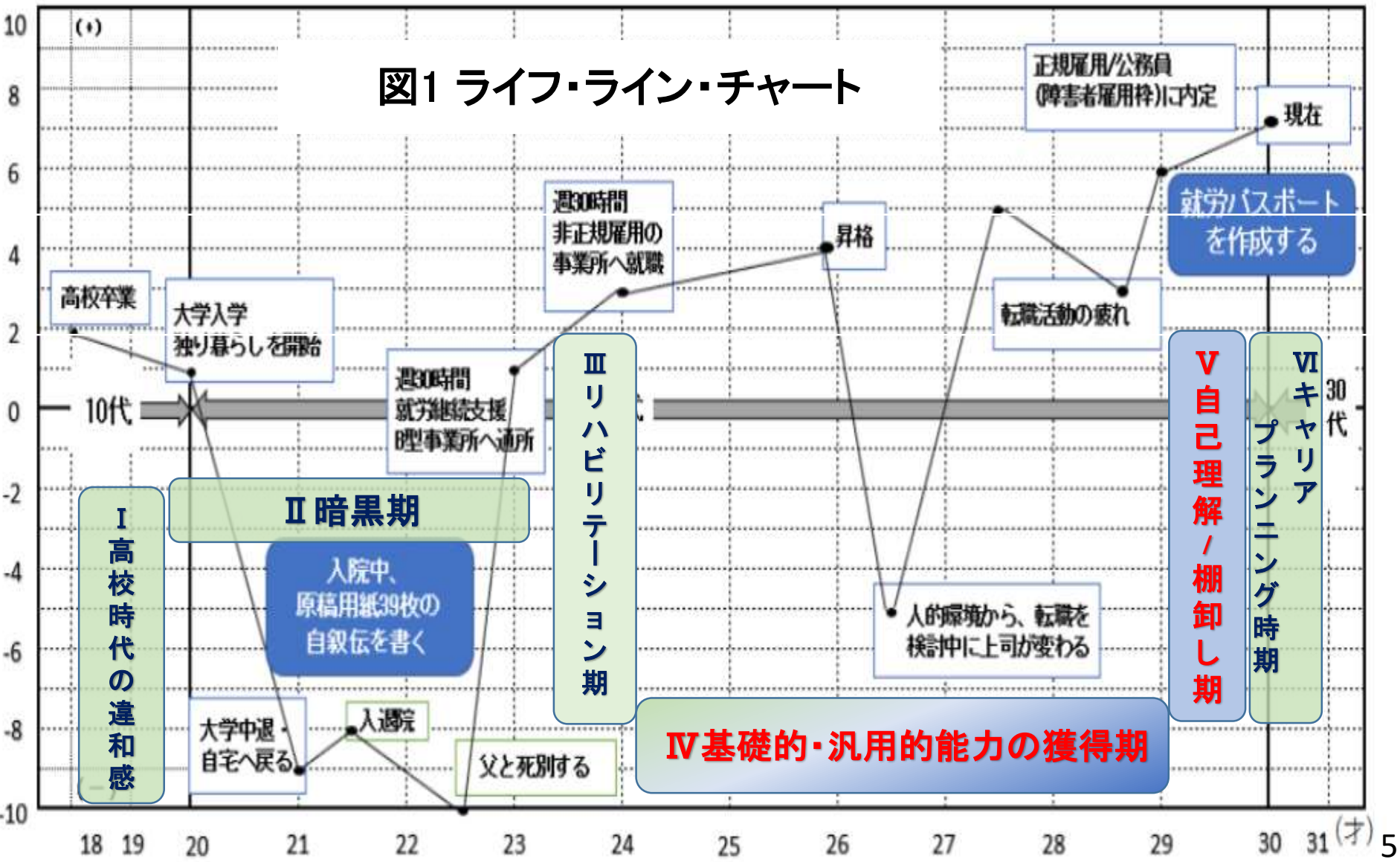
B型
文章化

図1 ライフ・ライン・チャート



3 調査結果

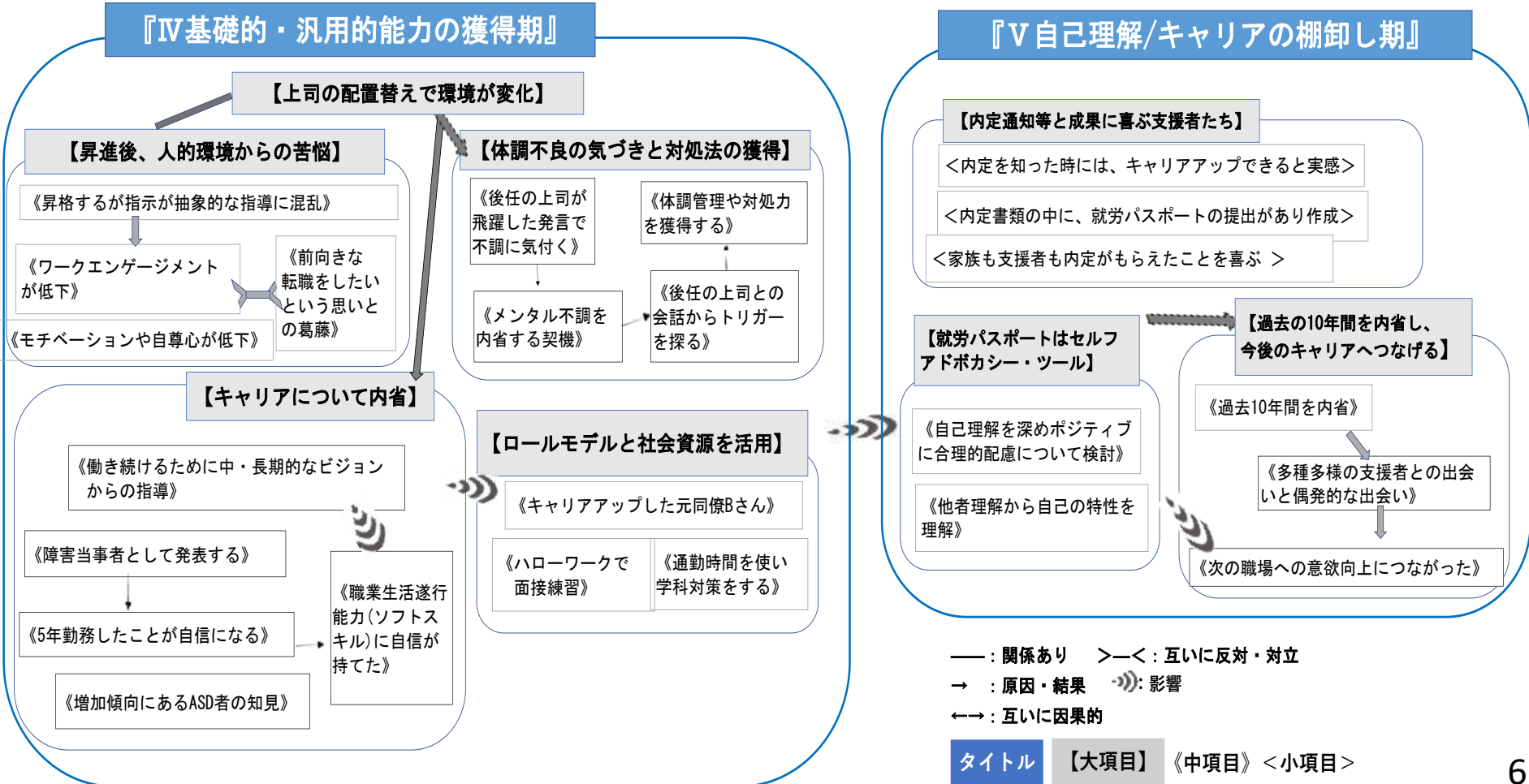
図1 ライフ・ライン・チャート



3 調査結果

今回は、テーマに添った箇所のみを取り上げる。

図2 A型図解化(簡易版の一部抜粋)



3 調査結果

B型文章化は、以下のとおりである。

Aさんは、《昇格後上司の抽象的な指導に混乱する》ことがつづき、
＜自尊心が低下し離職を考える時期があった＞。【上司の配置替えで環境が変化】し、《働き続けるための中・長期的なビジョンから指導》から、
《自分で業務遂行の予測や優先順位を考える習慣》や【体調不良の気づきと対処法の獲得】、【キャリアについて内省】することになった。公務員試験の＜面接練習は若者就職支援センターを活用＞し、社会資源を活用するなど『**基礎的・汎用的能力の獲得期**』となった。

『**V 自己理解/キャリアの棚卸し期**』は、ASDの確定診断からの【過去10年
間を内省し今後のキャリアにつなげる】ことができた。《自己理解は他者理解を促進》され、《多種多様の支援者との出会いと偶発的な出会い》を再確認した。職場へ提出した【就労パスポートはセルフアドボカシー・ツール】としても有用で《次の職場への意欲向上につながった》。

キャリアアップした今、仕事を任せ自分で組み立てられることが
自己効用感になり、仕事が生活の質を上げると実感している

4 考察

(1)「IV基礎的・汎用的能力の獲得期」の心理的変化と行動変容

ナンシー・K シュロスバーグの理論 「転機」の4Sモデル⁴⁾



転機になった
イベント

転機の3つの
ステップ

転機がもたらす
4つの変化

転機の3つの段階

転機が起こる

転機を
見定める

日常生活の
変化

転機の
始まり

リソース
(資源)

自己概念の
変化

転機の最中
(ストレス)

受け止める
対処する

人間関係の
変化

転機の
終わり
(受容)

役割の変化



4 考察

(1)「Ⅳ基礎的・汎用的能力の獲得期」の心理的変化と行動変容

Aさんの転機と行動変容の過程

転機になった
イベント

上司の
異動



転機の3つの
ステップ

前向きな
転職を目指す

後任の上司
(サポーター)

- 報連相
- 業務遂行の予測と優先順位を検討、振り返り

転機がもたらす
4つの変化

公務員採用
試験の勉強

- 職業能力感
- 職場適応力

積極的行動

リーダー的
存在が強化



転機の3つの段階

キャリアアップ
(正規雇用)
の内定通知

- 転職活動の疲労
- 不安

新たな
キャリア
プランニング
時期

4 考察

向上させた能力

Aさんの言語報告

1人間関係形成・ 社会形成能力	➤ コミュニケーション・スキル など ➤ 他者に働きかける力	◆ 入職当時から、ボーナスもないパート職で良いとは思わないので、いつかは転職をすると伝えていた ◆ 公務員の元同僚Bさんと会う
2自己理解・ 自己管理能力	➤ 自己役割の理解 ➤ 前向きに考える力 ➤ 忍耐力 ➤ ストレスマネジメント など	◆ 一般職員と稼働した経験から適切な指示と確認作業で、自立的に稼働できる自信ができた ◆ 他界した父親を思い出すと不安定になる ◆ 睡眠時間を意識し対応策をとる
3課題対応能力	➤ 情報の理解・選択・処理 ➤ 本質の理解と計画立案 など	◆ 担当業務から特性にあった、得意な業務を知ることができた ◆ 面接練習はHW若者就職支援センターを利用した
4キャリア プランニング 能力	➤ 就労意義や役割理解 ➤ 将来設計 ➤ 行動・改善 など	◆ これからは、年度が変われば人事異動や職種が変わる可能性がある ◆ フルタイムになり、睡眠時間の確保を優先した生活リズムに変わった

4 考察

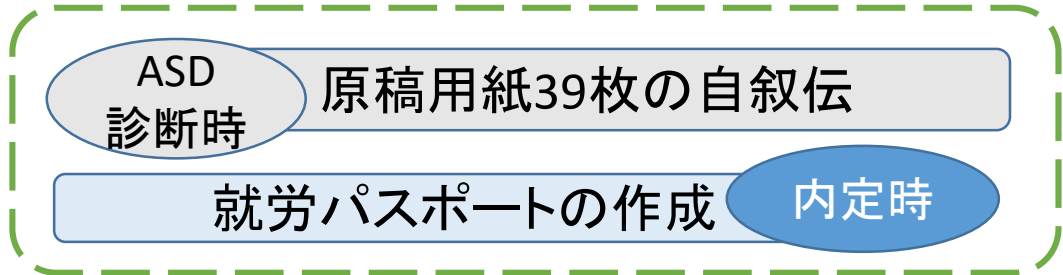
支援者の行動

支援者の中心的役割は、個人がライフテーマを見つけるのを支援し、そのテーマを仕事の世界で活かす道を協働して考える⁵⁾

ひとりの職業人として対応し、職場内の心理的安全性を担保する環境づくり

健康管理の状態を把握し、OJTを通じて業務の理解度や社会性などをインフォーマルアセスメントし、対象者と共有することで自己理解を促進

Aさんのキャリア形成における心理的変化



転機となるタイミングで、書字活動を通じ言葉を選んで自己を構成し自己概念を形成



視覚優位の特性に合わせて、キャリアをライフ・ライン・チャートから振り返る

- 自己理解が深まる
- 自己有用感へ展開



「転機」を契機にストレングスが強化された

5 今後の課題

本研究の成果

- 青年期にASD診断を受け自己理解を深めていく様相を、約10年間のプロセスを通して示したことは成果と考える。
 - ◆相談場面でライフ・ライン・チャートを活用する効果
 - ◆「就労パスポート」は、ポジティブなセルフアドボカシーツール
 - ◆ハローワークで行われている面接練習のサービスの活用

限界

- 一事例という点にあり一般化可能性の点で問題を残している。
- 高機能自閉症者の自己理解とキャリア形成におけるワークモチベーションの規定要因や、相談支援事業所等の活用程度など、本研究の結果とどのような違いがあるのかを検討することが必要である。

【参考文献】 1)松為信雄「キャリア支援に基づく職業リハビリテーションカウンセリングー理論と実践ー」,ジアース教育新社, (2021),p.77 2)河村茂雄「心のライフラインー気づかなかった自分を発見する」,誠信書房,(2000) 3)川喜田二郎「発想法改版ー 創造性開発のために」,東京中央公論社,(2007) 4)ナンシー・K. シュロスバーグ「選職社会」転機を活かせー自己分析手法と転機成功事例33」,日本マンパワー出版, (2000) 5)松為信雄「キャリア支援に基づく職業リハビリテーションカウンセリングー理論と実践ー」,ジアース教育新社, (2021),p.73